

国語 第1学年 ことばのたいそう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、相手が知らせたいことを落とさず聞き、聞きたいことを尋ねて詳しくする。聞いていないことを想像で補わない。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「ことばのたいそう」教材名「くわしくきこう」

2 単元の目標

身近なことを表す語句を知り、話の中で使える。話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさず聞き、内容を捉えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①身近なことを表す語句を知り、話の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさず聞き、内容を捉えている。(A(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

相手が知らせたいことを落とさず聞き、聞きたいことを尋ねて詳しくする。聞いていないことを想像で補わない。学習指導要領のA(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点は知識・技能であり、本案ではそれを使う言語活動の関連項目としてA(1)エを加えている。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師の独自の短い体験話を聞き、聞いたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。おおむね満足できる状況は、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさず聞き、内容を捉えているという姿で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○短い話から聞いたことを確かめる。もっと知りたいことを選ぶ。評価：学習状況を見て支援する。

第1次 第2時（本時）：○相手の返答を聞いて確かめる。聞く前後で分かったことを比べる。評価：知①・思

①（発言・学習記録）

6 本時の指導（2/2）

(1) 本時の目標

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさず聞き、内容を捉えられる。

（２）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「もっと知りたいのは、いつ・どこ・どんなことですか」

【めあて】相手が知らせたいことを落とさず聞き、聞きたいことを尋ねて詳しくする。

予想される児童の反応：・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「もっと知りたいのは、いつ・どこ・どんなことですか」

話し手は学校で経験した出来事を短く話し、聞き手は聞けたことと聞きたいことを分ける。聞き手が関連する質問を一つずつし、返答を待つ。聞き手は聞き取った内容を言い返し、話し手が合っているか確かめる。質問で詳しくなったことを絵や短い文で残す。

予想される児童の反応：・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。

・友達が答えたことをもう一度確かめたい。

・聞くと初めより様子が分かった。

指導上の留意点：教師の独自の短い体験話を聞き、聞けたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。

想定するつまずき：一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思①話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさず聞き、内容を捉えている。（発言と学習記録）

知①身近なことを表す語句を知り、話の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）（使った言葉・音読や表記の確認）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・聞くと初めより様子が分かった。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「もっと知りたいのは、いつ・どこ・どんなことですか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

